

第5学年 社会科（食育）学習指導案

日佐小学校 5年2組

T1 担任 窪田 浩之

T2 栄養教諭 林田 洋司子

1 単元名 「これからの食料生産」

2 指導観

- 子どもたちは、これまでに農業や水産業の学習で、我が国の食料生産物の分布や土地利用の特色、食料生産に従事している人々の工夫や努力、水産業の輸入など、様々な食料生産が国民の食生活を支えてきていることを学習してきている。しかし、毎日不自由なく食事をしていることやスーパーやコンビニエンスストアなどで多くの食料品が売られていることなどから、身の回りに食料が十分あることを感じている。また、テレビのニュース等で輸入食料品の安全性の問題が起こっていることなどは知っていても、我が国の食料自給率が低下している問題や輸入問題に十分な問題意識をもつまでには至っていない。
- 本単元では、様々な食料生産が国民の生活を支えていることや食料の中には外国から輸入しているものが多くあることを理解し、これからの食料生産の在り方について考えようとする態度を育てることをねらいとしている。我が国の食料生産自給率はカロリーベースで39%であり、主要先進国の中でも極めて低い水準にある。食料自給率低下の原因と考えられる「就労人口の減少」「安い外国食料の輸入拡大」「食生活の変化」などの問題を理解し、我が国や世界の食料生産問題や環境問題について考え、これからの自分の食生活を考えていけるようにしたい。
- 指導にあたっては、子どもたちが身近な給食から食生活に関心をもつように、給食の食料自給率から気づいたことや疑問を出し合い、給食の輸入食料や輸入先を知らせ、輸入が多いことに気づかせる。さらに他国の食料自給率と我が国の平均的食料自給率と比べ、日本の食料の輸入量の多さに気づかせる。そして、輸入がなくなるとどうなるかを考えさせ、これからの食料生産をどうしていけばいいか学習問題をたてる。その予想から、自分自身の調べる課題を作るようにする。その際に、「生産者の工夫や苦労・問題点」、「輸入食料やそれをめぐる問題」、「食料自給率低下を防ぐには」などについて調べ、食料生産問題や環境問題についても考えていけるようにする。さらに、調べた課題を交流することにより、消費者の立場で考え、これからの食料生産の在り方について考えをまとめていけるようにする。また、栄養教諭の詳しい給食献立の工夫を聞くことにより、身近にできる自らの食生活を見直すことにつなげていくようにする。

3 単元目標

- 我が国の食料生産について、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き、食料の中には輸入しているものがあることを取り上げて、それらが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。また、食の安全性や生産者の苦労や工夫についても理解を深めるようにする。
- 我が国の主な食料輸入先や食料の自給率、食料輸入をめぐる問題から、我が国の食料生産について関心をもつようにする。
- 我が国の食料生産について、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、それらは国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていることについて考える力や、調べたことを表現する力を育てるようにする。

4 食育の視点

- 生きていく上で十分な量の食事が欠かせないことが分かり、それを満たすためには輸入食品が必要であることが理解できる。【食事の重要性】
- 生産地や生産方法によって食べ物の種類や食味、品質や価格に違いがあることが分かり、ニーズに合わせた選択肢となることが理解できる。【食品を選択する能力】
- 様々な食料生産の仕組みと生産者の苦労や努力の上に、毎日安全で十分な食べ物を食べられる私たちの食生活が成り立っていることに感謝することができる。【感謝の心】
- 食料生産や流通は環境や資源に影響することが分かり、配慮した食生活をしようとする。【社会性】
- 私たちの食生活は地域の農林水産物と密接に関連し、地産地消の考え方が一方、諸外国とも深い関係があることが分かる。【食文化】

5 単元計画 (全6時間)

段階	主な学習活動と内容	指導上の留意点	配時								
つかむ T1・T2	<p>1 私たちが食べているものは、どこからきているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 給食の献立から調べた食料自給率から、気づいたことや疑問を出し合う。 ○ 他国の自給率と我が国の平均的食料自給率を比べ、気づいたことを出し合う。 ○ 主な食料の自給率を知る。 ○ 給食献立で大切にしていることを知る。 ○ 普段の食べ物で大切にしていることを考える。 ○ 外国産と国産のどちらを選ぶか考えられるように学習問題をたてる。 <p>学習問題 これからの日本の食料生産について考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習を想起できるように、農業や水産業の学習内容を掲示しておく。 ○ 給食の献立から調べた食料自給率のわかりやすい資料を提示する。 ○ 他国と日本の食料自給率の違いが分かる資料を提示する。 ○ 主な食料自給率がわかりやすい資料を提示する。 ○ 給食献立で大切にしている3つのことを簡潔に話す。 ○ 学習問題を作れるように、外国産と国産のどちらを選ぶか課題を与える。 	1 (本時)								
さぐる T1	<p>2 学習問題を予想し、自分の調べる課題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題の答えを予想し、自分の調べる課題をみつける。 <p>3 自分の課題を調べてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料をもとに学習問題の事実を追究する。 ○ 学習問題の答えをプリントにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">「農林などの従事者の変化」</td> <td style="width: 50%;">「従事者1人当たりの耕地面積」</td> </tr> <tr> <td>「食料の輸入先と輸入量」</td> <td>「食料輸入の課題」</td> </tr> <tr> <td>「人口の移り変わり」</td> <td>「国産と輸入の値段の違い」</td> </tr> <tr> <td>「食料自給率の移り変わり」</td> <td>「食料自給率を他国と比べると」等</td> </tr> </table> </div> <p>4 まとめた内容をグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれに調べた事実を交流し、グループでまとめる。 	「農林などの従事者の変化」	「従事者1人当たりの耕地面積」	「食料の輸入先と輸入量」	「食料輸入の課題」	「人口の移り変わり」	「国産と輸入の値段の違い」	「食料自給率の移り変わり」	「食料自給率を他国と比べると」等	<ul style="list-style-type: none"> ○ これからの食料生産に特に調べていく必要があると思うことを1つ選択させ、自分の考えを明確にし、調べ学習ができるようにする。 ○ 調べ学習プリントに、思考の流れを明確に表現できるような工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べ学習プリントに自分の考えを明記させ、自分の考えの根拠となる資料を追加させ、交流の際に発表しやすくする。 	4
「農林などの従事者の変化」	「従事者1人当たりの耕地面積」										
「食料の輸入先と輸入量」	「食料輸入の課題」										
「人口の移り変わり」	「国産と輸入の値段の違い」										
「食料自給率の移り変わり」	「食料自給率を他国と比べると」等										
まとめる T1・T2	<p>5 クラスのまとめをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流した内容をみんなで出し合い、これからの食料生産に必要なことをまとめていく。 <p>6 栄養教諭の話から、身近な給食の取り組みについて理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 給食献立で大切にしている詳しい話を聞いて、自分の食生活をさらに見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループでまとめた事実がさらに明確になるように、視点ごとに発表を行い、全体で考えを共有できるようにする。 ○ 交流した内容を視覚的にもわかりやすくするために、板書の工夫を行う。 ○ 消費者の立場から何が求められているのかをまとめ、生産者はどんな工夫をしているのかまとめる。 ○ 栄養教諭の日頃の献立の工夫を詳しく話してもらうことにより、身近な問題に戻り、自分の食生活を見直すことができるようにする。 	1								

6 本時

平成 26 年 11 月 25 日 (火) 5 校時 日佐小学校 5 年 2 組教室

7 本時のねらい

- 国内の食料生産は、多く輸入に頼っていることに気づく。
- 身近な給食献立の食料自給率や給食の輸入先、他国と比べた日本の食料自給率などから、わかることや疑問を見つけ、学習問題をたてることができる。
- ◎ 自分たちの身近な食生活から、日本の食料生産の問題について考えを深める。(食育)

8 本時指導について

本時指導にあたっては、給食献立から身近な食生活に関心を持ち、資料から気づいたことや疑問に思うことを全体で交流し、考えを深め、日本の食料は輸入が多いことに気づかせるようにする。そして、主な食料の食料自給率を知らせ、食料によって国産と外国産の割合の違いに気づかせる。さらに、給食献立で大切にしていることを聞き、普段の食べ物で大切にしていることを考え、国産と外国産のどちらを選ぶかを考えることができるような学習問題をつくることのできるために以下の2点を工夫して指導していく。

① 資料提示の工夫

- ・ 自分たちの身近な給食の献立を提示することで食生活に関心をもたせる。
- ・ ごはんが主食のメニューとパンが主食のメニューの食料自給率を提示することにより、1回の給食の中でも食料自給率の違いがあることを知らせるようにする。
- ・ 給食の食料の輸入先を世界地図にあらわしたものを掲示し、輸入の多さに気づかせる。
- ・ 興味が継続するように、日本の食料自給率を予想させ、他国の食料自給率と我が国の平均食料自給率を比べた資料を提示し、日本の食料自給率の低さに気づかせる。
- ・ 主な食料の食料自給率を視覚的にわかりやすい資料で提示し、食料によって自給率の違いがあることに気づかせる。

② 栄養教諭の関わり

- ・ 給食献立の自給率を栄養教諭から出すことにより、身近な給食から食料生産に関心をもてるようにする。
- ・ 輸入の多さに気づかせた後、食料輸入元を世界の白地図に色塗りしたわかりやすい資料を提示し、給食の食料輸入の多さに気づかせるようにする。
- ・ 輸入は多いが、献立に使われている食料の一部であるものもたくさんあることをおさえる。
- ・ 日本の主な食料の食料自給率を知らせ、食料によって自給率が大きく違うことに気づかせるようにする。
- ・ 給食献立で大切にしている3つのことを簡潔に知らせ、これからの学習のヒントを与えるようにする。(いろいろな食べ物・安全性・地産地消)

9 板書計画



10 本時の展開

配時	T1・T2	学習活動と内容	支援上の留意点
3	T 1	1 本時のめあてについて知る。 めあて わたしたちの食べ物はどこからきたのか考えて、 学習問題をたてよう。	<ul style="list-style-type: none"> 農業や水産業とも比較できるように、既習を掲示しておく。 朝ごはんや好きな食べ物から、食料はどこからきたか考えるようにする。
15	T 2	2 給食の献立から調べた食料生産の自給率を見て食料はどこからきたのか考える。 ○ 資料から気づいたことや疑問を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ごはんの方が、国産が多い。 1日の給食で約43%も違う。 ごはんの時でも100%ではない。 ↓ <ul style="list-style-type: none"> 給食で輸入している食料は何？ 給食で輸入している食料はどこから？ お米は日本で作られているから国産の%が高く、パンの小麦は輸入されているから低いのかな？ ○ 給食で輸入されている食料について知る。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな国からいろいろな食料が輸入されているんだな。 なぜこんなに輸入しているのだろうか？ 日本では何をどれくらい作っているのかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> ごはんの時とパンの時の食料自給率の違いがわかるように、献立配置図を比較的に提示する。 食事につかわれる食料について比べさせ、気づいたことが出やすいようにする。 100%の自給率ではないことに気づかせ、残りは輸入であることをおさえる。 出てきた意見をわかりやすいように板書していく。 給食の食料が多く、国から輸入されていることを、世界地図を使って話をする。 すべてが輸入ではなく、食品の一部の食料が輸入であることをおさえる。
5	T 1	3 日本の平均的食料自給率を知り、気づいたことを交流する。 ○ 食料自給率の意味を知る。 ○ 他国と比べた日本の食料自給率を知り、気づいたことを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> 他国に比べて食料自給率がかなり低い。 日本の平均自給率は低く、半分もない。 日本の平均的食事は輸入食料が多い。 ↓ <ul style="list-style-type: none"> 他にもどこから輸入しているのだろうか？ 国産のものを選んでいく気がするけどな？ 	<ul style="list-style-type: none"> 食料自給率の意味を知らせる。 興味をもたせるため、日本は食料自給率が何%か予想させ、資料を提示する。 他国との自給率の違いがわかりやすい資料を提示する。 一般的な食事の自給率は半分以下ということに気づかせ、輸入食料が半分以上もあることや、他国と比べるとかなり食料自給率が低いことをおさえる。
5	T 2	4 主な食料の自給率を知る。 ○ 米、小麦、大豆、野菜、肉、魚介類、果物、ごまの自給率を知る。 ○ 輸入がなくなったら、どんな食事になるか知る。	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的にわかりやすい食料自給率の資料を提示しながら、使っている食品をわかりやすく説明する。 視覚的にわかりやすい資料を提示する。
5	T 2	5 給食献立で大切にしていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 「日本や外国のことを知らせる」「安全安心」「できるだけ地産地消」の3つの視点を話す。
5	T 1	6 自分が食べ物を選ぶときに大切にしていることを考える。 ・ 値段 ・ 安全性 ・ おいしさ ・ 好きなもの ・ 新鮮さ	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物を選ぶときに大切にしていることを考えさせ、外国産と国産について考えをもたせるようにする。 出てきた意見をわかりやすく板書する。
5	T 1	7 学習問題をたてる。 ○ 外国産と国産のどちらを選ぶかを問い、その考えを解決していくための学習問題をたてる。 学習問題 これからの日本の食料生産について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 最終的に外国産と国産どちらを選ぶか考えるための学習問題をつくるようにする。
2	T 1	8 次時の学習について知る。 ・ 自分の調べる課題を見つけ、調べ学習をすることを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> 意欲が継続するように、次時からの活動を伝える。

